

リサイクル率の要因分析について

リサイクル率未達成要因の分析を目的に、公表資料等から以下のとおり整理した。

1 『目標設定時の達成見込値からの分析』資料1

- (1) 現計画策定時（平成26年度当時）の平成25年度実績リサイクル率(32.1%)の算定値から、リサイクル率の分母・分子の状況を整理
- (2) 平成26年当時の状況から、令和6年度に目標が達成するシナリオで、ごみ量（分母）、資源化量（分子）がどのような内訳構成になるか推計
 - ア 当時の社人研推計(H25.3公表)の令和7年人口推計値から、一人1日当たり排出量目標値(980g)に公共系ごみを加えた「ごみ総量」(分母)を推計
 - イ リサイクル率目標値(36.0%)とし、分子の量を推計
 - ウ 資源化量のごみの性質から、その量の決定要因を分析
 - (ア) 公社（委託収集・事業系廃棄物、自己搬入）は、びん、ペットボトル、缶、金属ごみの量に比例
 - (イ) センター・破碎鉄類回収は処理量、スラグ・メタルは溶融量に比例
 - (ウ) 集団回収（97%程度古紙）、古紙ステーション回収は、紙需要に比例
 - (エ) 許可業者等搬入・の他は、ごみ量に比例
 - エ (ア)、(イ)、(エ)は、ごみ総量が近い令和3年度実績と想定
 - オ リサイクル率を満たす(ウ)の量を想定すると、13,742tと試算
- (3) 令和6年度実績リサイクル率(29.6%)の算定値から、リサイクル率の分母・分子の状況を整理し、(2)と比較
※実績値根拠は、「秋田市清掃事業概要」（秋田市環境都市推進課）

分析結果

- ・ごみ総量が想定103,985tに比較して100,519tとなっており分母減少に貢献
- ・古紙（集団回収・古紙ステーション回収）が13,742tに比較して、7,196tであり排出量を把握している資源化古紙量の実績値が見込値より大幅に減っている

2 社会情勢の分析

- (1) 『新聞の発行部数と世帯数の推移』（一般社団法人日本新聞協会HP）資料2
 - ・2013(平成25年)から2024(令和6年)まで発行部数が43.37%減
 - 〃
1世帯当たり部数が45.88%減
- (2) 公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所が公表する出版市場（雑誌）状況を分析 資料3
 - ・2013(平成25年)から2024(令和6年)まで
雑誌の市場規模が54.09%減
雑誌の発行部数が58.42%減

3 秋田市人口と資源集団回収および古紙ステーション回収の実績 資料4

- ・秋田市の人口、資源集団回収、古紙ステーション回収の実績を比較
- ・2013年度と2024年度を比較すると、人口の減少幅に比較して、資源集団回収および古紙ステーション回収の減少幅が特に大きい
- ・2013年当時が、資源集団回収量、古紙ステーション回収量が急減少が始まる直前期である可能性が高い

4 「日本の廃棄物処理令和5年度版」（令和7年3月、環境省）資料5

- ・日本全国のリサイクル率は、平成26年度の20.6%から令和5年度の19.5%まで減少傾向である。

目標設定時の達成見込値からの分析

●リサイクル率

		【現計画策定 (H26年度)時】 平成25年度 実績	目標達成 シナリオ 【目標年度】 令和6年度 推計	【実績値】 令和6年度 実績	【参考値】 令和3年度 実績	
ごみ総量(A) [単位:t]		128,546	103,985	100,519	110,084	
人口		319,497	285,462	291,412	301,573	
一人1日当たり排出量(g)		1,084	980	926	981	
[単位:t]						
資源化量	公社	委託収集	4,046	3,475	3,168	3,475
		事業系廃棄物、自己搬入	578	400	450	400
		小計	4,624	3,875	3,618	3,875
	センター	破碎鉄類回収	899	390	306	390
		スラグ・メタル	13,106	10,174	8,999	10,174
		小計	14,005	10,564	9,305	10,564
	民間	集団回収	4,151	13,742	2,470	2,892
		古紙ステーション回収	9,443		4,726	5,672
		許可業者等搬入(B)	12,518	12,738	12,244	12,738
		使用済み小型家電	0		30	24
		機密文書(C)	727	596	567	596
		その他	0	720	587	720
		小計	26,841	27,796	20,624	22,642
計(D)【分子】		45,470	42,235	33,547	37,081	
(A)+(B)+(C) 【分母】		141,791	117,319	113,330	123,418	
リサイクル率		32.1%	36.0%	29.6%	30.0%	

評価
分母の減少に
貢献

量を決める要因

びん・ペットボトル
缶・金属ごみの量に比
例

処理量に比例
溶融処理量に比例

紙需用に比例

ごみ量に比例

紙需要に比例

達成すべき値の
52%(7196/13742)
に留まる

当協会について

ニュース&
トピックス

後援機関

声明・見解

調査データ

刊行物

メディアリンク

調査データ

発行部数

新聞広告

財務

市販

雇用

デジタルメディア

NIEに関する調査

トップページ > 調査データ > 発行部数 > 新聞の発行部数と世帯数の推移

新聞の発行部数と世帯数の推移

各年10月、新聞協会経営業務部調べ
(単位=部)

	合計	種類別		発行形態別			1世帯 当たり 部数	世帯数
		一般紙	スポーツ紙	セット部数	朝刊単独部数	夕刊単独部数		
2024年	26,616,578	24,938,756	1,677,822	3,916,505	22,297,326	402,74	0.45	58,738,888
2023年	28,590,486	26,674,129	1,916,357	4,456,199	23,681,695	452,592	0.49	58,493,428
2022年	30,846,631	28,694,915	2,151,716	5,928,317	24,400,468	517,846	0.53	58,226,982
2021年	33,027,135	30,657,153	2,369,982	6,484,982	25,914,024	628,129	0.57	57,849,163
2020年	35,091,944	32,454,796	2,637,148	7,252,724	27,064,065	775,155	0.61	57,380,526
2019年	37,811,248	34,877,964	2,933,284	8,422,099	28,554,249	834,900	0.66	56,996,515
2018年	39,901,576	36,823,021	3,078,555	9,025,146	29,993,652	882,778	0.70	56,613,999
2017年	42,128,189	38,763,641	3,364,548	9,700,510	31,487,725	939,954	0.75	56,221,568
2016年	43,276,147	39,821,106	3,455,041	10,413,426	31,889,399	973,322	0.78	55,811,969
2015年	44,246,688	40,691,869	3,554,819	10,874,446	32,365,532	1,006,710	0.80	55,364,197
2014年	45,362,672	41,687,125	3,675,547	11,356,360	32,979,682	1,026,630	0.83	54,952,108
2013年	46,999,468	43,126,352	3,873,116	12,396,510	33,552,159	1,050,79	0.86	54,594,744
2012年	47,777,913	43,723,161	4,054,752	12,876,612	33,827,147	1,074,154	0.88	54,171,475
2011年	48,345,304	44,091,335	4,253,969	13,235,658	33,975,622	1,134,024	0.90	53,549,522
2010年	49,321,840	44,906,720	4,415,120	13,877,495	34,259,015	1,185,330	0.92	53,362,801
2009年	50,352,831	45,659,885	4,692,946	14,727,162	34,399,779	1,225,890	0.95	52,877,802
2008年	51,491,409	46,563,681	4,927,728	15,715,332	34,403,818	1,372,259	0.98	52,324,877
2007年	52,028,671	46,963,136	5,065,535	16,408,728	34,174,558	1,445,385	1.01	51,713,048
2006年	52,310,478	47,056,527	5,253,951	16,789,314	34,047,660	1,473,504	1.02	51,102,005
2005年	52,568,032	47,189,832	5,378,200	17,111,533	33,927,821	1,528,678	1.04	50,382,081
2004年	53,021,564	47,469,987	5,551,577	17,341,993	34,066,442	1,613,129	1.06	49,837,731
2003年	52,874,959	47,282,645	5,592,314	17,464,928	33,781,260	1,628,771	1.07	49,260,791
2002年	53,198,444	47,390,027	5,808,417	17,616,627	33,900,896	1,680,921	1.09	48,637,789
2001年	53,680,753	47,559,052	6,121,701	18,013,395	33,862,600	1,804,758	1.12	48,015,251
2000年	53,708,831	47,401,669	6,307,162	18,187,498	33,702,727	1,818,606	1.13	47,419,905

※ 朝夕刊セットを1部として計算

※ セット紙を朝夕刊別に数えた場合は、30,533,083部(2024年10月現在)

※ 出典数(2024年10月現在) 2024年10月現在 10月現在 10月現在 10月現在 10月現在 10月現在 10月現在 10月現在

2013年 (H25) から
【46,999,468】
2024年 (R6) までで
【26,616,578】
部数が43.37%減

2013年 (H25) から
【0.86】
2024年 (R6) までで
【0.45】
1世帯当たり
部数が45.88%減

出版科学研究所発表(推定販売金額、平均価格等)

年	推定販売金額(億円)				平均価格(円)		返品率(%)		出版物の部数(万冊)	
	書籍	雑誌	電子出版	合計	書籍	雑誌	書籍	雑誌	書籍 出回り	雑誌 発行部数
1995	10,470	15,427		25,896	1,111	408	35.5	25.3	146,104	506,316
1996	10,931	15,633		26,564	1,136	418	36.1	27.1	150,632	512,408
1997	10,730	15,644		26,374	1,173	428	39.3	29.5	150,830	518,979
1998	10,100	15,315		25,415	1,195	429	41.0	29.2	143,246	504,898
1999	9,936	14,672		24,607	1,208	433	39.9	29.6	136,831	481,510
2000	9,706	14,261		23,966	1,207	434	39.4	28.9	132,655	462,139
2001	9,456	13,794		23,250	1,206	434	39.1	29.4	128,790	449,871
2002	9,490	13,616		23,105	1,228	438	37.7	29.4	124,176	440,478
2003	9,056	13,222		22,278	1,210	445	38.8	31.0	122,298	431,098
2004	9,429	12,998		22,428	1,209	452	36.7	31.7	123,200	420,762
2005	9,197	12,767		21,964	1,194	459	38.7	32.9	125,713	414,681
2006	9,326	12,200		21,525	1,176	465	38.2	34.5	128,324	400,599
2007	9,026	11,827		20,853	1,131	468	39.4	35.2	131,805	390,396
2008	8,878	11,299		20,177	1,125	479	40.1	36.5	131,756	371,972
2009	8,492	10,864		19,356	1,123	495	40.6	36.2	127,386	343,857
2010	8,213	10,535		18,748	1,110	503	39.0	35.5	121,390	324,426
2011	8,198	9,844		18,042	1,118	511	37.6	36.1	117,600	301,732
2012	8,013	9,385		17,398	1,112	517	37.8	37.6	115,883	290,701
2013	7,851	8,972		16,823	1,103	524	37.3	38.8	113,458	279,516
2014	7,544	8,520	1,144	17,209	1,116	532	37.6	40.0	108,398	266,832
2015	7,419	7,801	1,502	16,722	1,128	546	37.2	41.8	104,766	245,845
2016	7,370	7,339	1,909	16,618	1,138	558	36.9	41.4	102,605	224,658
2017	7,152	6,548	2,215	15,916	1,153	566	36.7	43.7	97,888	205,453
2018	6,991	5,930	2,479	15,400	1,164	574	36.3	43.7	94,222	183,552
2019	6,723	5,637	3,072	15,432	1,182	589	35.7	42.9	88,483	167,766
2020	6,661	5,576	3,931	16,168	1,198	591	33.0	40.0	82,995	157,265
2021	6,804	5,276	4,662	16,742	1,238	605	32.5	41.2	81,382	148,369
2022	6,497	4,795	5,013	16,305	1,256	627	32.6	41.2	76,738	130,136
2023	6,194	4,418	5,351	15,963	1,285	661	33.4	42.5	72,449	116,205
2024	5,937	4,119	5,660	15,716						

2013年(H25)には
8,972億円の市場規模だった
雑誌市場が
2024年(R6)には
4,119億円の市場規模に縮小
(54.09%減)

2013年(H25)には
27.9億冊発行していた
雑誌が
2023年(R5)には
11.6億冊の発行部数に縮小
(58.42%減)

秋田市人口と資源集団回収および古紙ステーション回収の実績

秋田市人口			(単位:t)		(単位:t)		
		指数	資源集団回収	指数	古紙ステーション回収		
H21	2009	323,425		4,026		8,571	
H22	2010	322,092		4,013		7,780	
H23	2011	320,904		3,949		8,226	
H24	2012	320,681		4,217		9,283	
H25	2013	319,497	100.00	4,151	100.00	9,443	100.00
H26	2014	317,651	99.42	3,948	95.11	8,690	92.03
H27	2015	315,770	98.83	3,749	90.32	8,046	85.21
H28	2016	313,444	98.11	3,604	86.82	7,463	79.03
H29	2017	310,412	97.16	3,429	82.61	7,040	74.55
H30	2018	308,163	96.45	3,365	81.06	6,653	70.45
H31	2019	306,265	95.86	3,241	78.08	6,046	64.03
R2	2020	304,334	95.25	2,945	70.95	5,746	60.85
R3	2021	301,573	94.39	2,892	69.67	5,672	60.07
R4	2022	298,587	93.46	2,858	68.85	5,631	59.63
R5	2023	295,065	92.35	2,589	62.37	5,106	54.07
R6	2024	291,412	91.21	2,470	59.50	4,726	50.05

3. 資源化の状況

(単位：千トン/年)

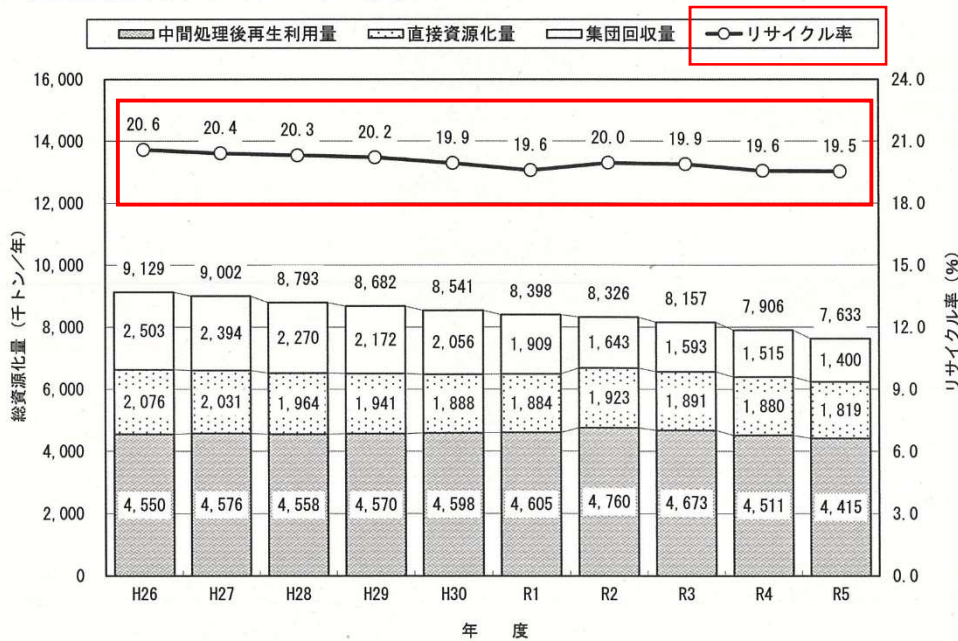
区分	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
市町村等によるごみの資源化量		6,626	6,608	6,523	6,510	6,486	6,489	6,683	6,564	6,391	6,234
	中間処理後再生利用量	4,550	4,576	4,558	4,570	4,598	4,605	4,760	4,673	4,511	4,415
	直接資源化量	2,076	2,031	1,964	1,941	1,888	1,884	1,923	1,891	1,880	1,819
集団回収量		2,933	2,526	3,140	2,922	2,013	2,086	2,002	2,070	1,902	1,860
資源化量合計		2,503	2,394	2,270	2,172	2,056	1,909	1,643	1,593	1,515	1,400
ごみの総処理量		9,129	9,002	8,793	8,682	8,541	8,398	8,326	8,157	7,906	7,633
		10,163	10,041	10,781	10,526	8,875	8,973	8,747	8,456	8,020	7,839
リサイクル率 (%)		41,841	41,699	41,011	40,851	40,777	40,949	40,085	39,421	38,898	37,676
		43,144	42,811	43,281	42,914	41,479	42,018	40,720	39,792	39,035	37,895
		20.6	20.4	20.3	20.2	19.9	19.9	20.0	19.9	19.6	19.5
		22.3	22.2	23.7	23.4	20.4	20.4	20.6	20.4	19.8	19.9

注)・「中間処理後再生利用量」とは、資源ごみ、粗大ごみ等を処理した後、鉄、アルミ等を回収し資源化した量である。
 ・「集団回収量」とは、市町村による用具の貸出、補助金の交付等で市町村登録された住民団体によって回収された量をいい、平成17年度の取りまとめから「ごみ総排出量」に含めている。

$$\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみの総処理量} + \text{集団回収量}} \times 100$$

・2段書き上段は災害廃棄物を除く値であり、下段は災害廃棄物を含む値である。

(1) 総資源化量とリサイクル率の推移



注)・「総資源化量」とは、中間処理後再生利用量、直接資源化量、集団回収量の合計(上表の「資源化量合計」)である。
 ・令和5年度において家電4品目の家電処理量及び家電再商品化量(いずれも市町村が収集した量は除く)を考慮した場合

$$\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量} + \text{家電再商品化量}}{\text{ごみの総処理量} + \text{集団回収量} + \text{家電処理量}} \times 100 = 20.5\%$$

・令和5年度においてごみ燃料化をエネルギー回収とし、リサイクルから除いた場合

$$\text{リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量(ごみ燃料化を除く)} + \text{集団回収量} + \text{家電再商品化量}}{\text{ごみの総処理量} + \text{集団回収量} + \text{家電処理量}} \times 100 = 19.8\%$$

引用:「日本の廃棄物処理令和5年度版」

(令和7年3月、環境省環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課) 7頁